

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000120		
法人名	株式会社ハートコンサルタント		
事業所名	グループホーム おひさまの大地(1階)		
所在地	岐阜県郡上市高鷲町鷲見5390-5		
自己評価作成日	令和 5年 3月28日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2191000120-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 5年 9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、ご家族様の希望に沿って、日々の生活を自由に楽しみ、穏やかに過ごして頂けるような環境づくりに取り組んでいる。
衣食住の満足を提供できるようスタッフ一同努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かなひるがの高原に立地し、建物は和モダンのテイストが落ち着きを感じさせる造りであり、室内には暖炉、品のある絨毯や畳等の設えがあり、木材や障子が多く活用され、居心地良く過ごせる雰囲気がある。2階のユニットスペースから廊下に出ると、窓から白山が眺望でき、屋内からでも四季の自然を楽しむことができる。接遇においては「感動と満足」をキーワードとして掲げ、利用者のQOLを高めるべく、ケアに努めている。とりわけ、食事は利用者にとって大切な楽しみとしてとらえ、専門の料理人を採用し、メニューは季節感、栄養バランス、彩り等を考えて作成し、調理している。入浴については、浴槽をまたぐことが困難な場合でも、入浴用の椅子に座ったまま湯船につかることができる機能を備えた浴槽を設置し、ゆったりと入浴を楽しんでいただけるよう支援している。多くの地域ボランティアの来訪があり、また、様々な行事を実施する等して、利用者の活き活きとした生活の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おいしい食事、適度な運動を行い、真心と笑顔、寄り添う介護を日々心掛けている	「感動と満足」や「謙虚と感謝」というキーワードを会議等で常々話題にしている。「笑顔で挨拶」を今月の目標として掲げ、理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の催し等に地域のボランティアに参加していただき、利用者や職員と交流やふれあいの機会を設けている。	敬老会には地域の幼稚園児の来訪があり、遊戯を披露する等の交流がある。また、バンド演奏やフラダンス等のボランティアを受け入れている。また、地域の見学受け入れをきっかけに、太鼓の演奏会が開催される等、交流の場が広がっている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今回が初めての為、評価を受けた内容をサービスの向上に活かしていきたい	会議には民生委員等の地域役員の参加者も多い。自己紹介をできる時間を設ける等、出席者が話しやすい雰囲気づくりに努め、利用状況やホームの運営状況等を話題にし、意見を聞いている。参加者からは、利用方法やボランティアの問い合わせ等、様々な意見をもらっている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員来所時、利用者の日頃の状況、意向を確認し、希望や願いを伝えている。	運営推進会議に出席してもらう事で、利用者の状況や待機状況等の報告ができています。介護相談員の受入れ等を通じて連携を深めたり、行政の依頼により、ヘルパー育成の一環として講演を引き受ける等している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠せず、外に出たい利用者には付き添い、安全を確保して拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の他事業所と合同でリモートによる研修会を開催し、認知症の理解や対応に関する知識を深めるとともに、事例を踏まえて施錠をする事リスクを話し合い、利用者が外に出たい場合には、満足のいくまで丁寧に寄り添うスタンスで支援するという認識を職員間で共有している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する周知徹底を図るための研修のみならず、職員間でも利用者への言葉かけに意識をして支援にあたっている。	利用者の権利擁護に係る研修を通して、虐待防止の意識を高めている。一方で、日常的なケアの中でのアンガーマネジメントやメンタルケアに心がけ、会議や面談で話題にしたり、食事会を通して雑談をしたりして、ストレスが虐待につながらないように留意し、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、理解が不十分であり研修などの学べる機会があると良い。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約は、ケアマネからきめ細やかな説明で契約内容を理解してもらっている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、家族との会話の中で意見を聞き、全体会議で職員に周知し、反映している	面会の機会を捉えて意見を聞くように努めている。また、プランの更新の際には、担当者会議への参加や電話を通じて意見を聞いている。急な面会や外出等についても可能な限り希望に応える等、意見や要望を運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で日常の気付き、提案を受けて反映している。 常に意見を言える環境作りに努めている。	日々の業務や面談を通じて、意見を聞き、職員会議で検討し、運営に反映させている。外国人雇用も積極的であり、多様な意見をくみ上げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの職員の立場を理解しながら勤務調整を図っている。	ワーク・ライフ・バランスに配慮し、職員の家庭事情を踏まえ、早番、夜勤、日勤等の勤務管理を行っている。豪雪地帯のため、冬場の勤務調整を行う場合には希望に応え、勤務シフトを作成する等、様々な働き方ができるようにしている。また、一般道に積雪がある場合は、ETCカードを配布する等、交通費を支援している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得やスキルアップに向けて、支援とサポートを行っている。	毎月、岐阜市の法人グループ事業所とリモートで繋ぎ、合同の勉強会を開催する等、職員のスキルアップを図っている。介護初任者研修や介護福祉士等、資格取得のための費用は法人で全額負担し、取得に向けた支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。 今後の課題である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の整理、食器拭き等のお手伝いをし ていただき、生活機能の維持を支援し、グ ループホームで共に過ごす馴染みの関係を 築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月末に家族宛てのお便りで本人の写真を載 せ、生活の様子をお伝えしている。また、電 話でも体調や日々の様子を連絡している。	利用時に家族から情報収集を行うとともに、日常的な生活の中でのコミュニケーションを通じて、利用者の希望や意向の把握に努めている。把握した意向等は連絡ノートに記入し、職員間で情報共有している。月末に本人の写真を添えた便りを家族に送ることで、家族の面会時等に本人に係る意見を聞くことがあり、これについても情報共有を図っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体能力や残存機能をしっかり把握し、本人の課題やニーズを分析し、多職種が連携してケアプランの作成をしている。	定期的にモニタリングを実施し、プランを更新している。また、入院等により状態に変化が生じた場合には、随時見直しも行っている。サービス担当者会議を開催する際には家族にも案内する等、参加を促し、意見を踏まえてプランを作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入、申し送りや連絡ノートでの情報共有、常に新しい情報の共有をして課題の整理をしてケアプランの見直しに活かしている。	日常的に利用者の生活の様子等を申し送りノートに記入することで、利用者の情報を職員間で共有している。収集した情報を踏まえて、アセスメントを行い、ケアプランに反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせて施設の枠にと られない柔軟な支援ができるようにつとめ ている。	職員は利用者それぞれの意向に配慮しながら支援している。例えば、喫茶コーナーでは、コーヒーが好きな利用者に、職員が豆を持参して提供している。また、ホームは和テイストな趣のある造りであり、看取り期に限らず、家族で宿泊を希望される場合は対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる音楽や歌、踊り等の輪の中に入り、地域の方と共に楽しいひと時を過ごしてもらっている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族に意向を確認し、施設の協力医療機関を主治医とさせていただいている。定期の往診、体調不良時に往診にきて下さっている。急変時には病院受診の対応をしている。	月に2回の往診を行っている。往診以外でも体調が悪い際には、訪問看護や訪問診療を受ける等、医療連携ができています。他科受診等の必要時には、協力医に紹介状を書いてもらい、受診に繋げている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、医療連携シートで情報提供をしている。病院や家族と連絡を取り入院中の状態、情報を収集している。	退院前に退院カンファレンスを行い、ADL等の確認をしている。入院時は早期退院に向けてホームから連絡を入れて状況の把握に努めている。市内の病院や施設で共有されている連携シートを活用している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針の共有、支援、家族への状態報告や面会を行い、本人・家族の納得のいく看取りができるよう支援している。	利用時に終末期の在り方や看取りの指針について説明と確認をしている。重度化した場合には、利用者・家族の意向に沿った支援を行っている。希望に応じ、家族の宿泊も可能としている。ここ1年で看取りの実績もあり、看取り後のふりかえりも行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、医師、看護師に報告・指示を受け対応している。実際の対応に不安がある職員もいるため、研修や事故対応マニュアルの必要性がある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、地域の方を交えた訓練は行っていない為、今後の課題である。	ハザードマップにて周辺の災害リスクについて把握している。様々な事態を想定した避難訓練と消火訓練を行っている。訓練では利用者と一緒にホームの外に出る訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮してそれぞれに合わせた言葉かけ、対応をしている。	利用者の立場に立つ観点から、自分だったらどうしてほしいか、または、してほしくない事は何かを常に考え、支援にあたっている。勉強会や会議での検討を通じて、人格の尊重を大切にした支援やプライバシーの確保について意識を高めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や仕草で本人の思いを察して、自己表現・決定ができる環境作りに努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にして本人の気持ちを尊重して日々の生活を思い思いに過ごしていただいている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の手作りの食事を毎日違うメニューで提供している。おやつと一緒に作ったり、テーブル拭き、食器片付けも手伝っていただいている。	食事を楽しんでもらうことを大切に考えており、調理は専門の料理人が各ユニットの台所に立ち、腕を振るっている。利用者それぞれの好みに合わせて、盛り付けの量等も配慮している。食生活に彩りがあるよう献立も工夫し、利用者にも手伝いを依頼したり、おやつ作りに参加してもらう等して、利用者の活性化につなげている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養状態、好みや嚥下機能に合わせた食形態で提供している。 記録で食事量、水分量の把握ができるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導を行い、自身でできない方には口腔清掃の介助を行っている。	起床時、毎食時に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。また、歯科医と連携し、定期的な診療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるよう支援している。 排泄記録で排便の確認を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴であるが、時間や曜日は決めておらず、その日の体調や本人の意思に配慮して個々に応じた入浴の支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに添った就寝・休息の支援を行っている。居室の明るさ、温度にも気を配り、量に布団を敷いて寝る方にも対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の効果、副作用の情報を確認し、服薬時の飲み込みの確認、誤薬のないよう確認を行っている。	誤薬の無いように、看護師が日付けを確認して声を出して配薬し、服用するところまで確認している。薬の変更があった場合等は、速やかな情報共有を行っている。服用を嫌う利用者にも、様々に工夫をして服薬してもらっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や生きがい、楽しみを見出してレクやお手伝い等の自分のことをしていただいて満足感や充実感が持てるよう支援している。	利用者それぞれの意向を踏まえ、一人ひとりのポテンシャルを引き出すべく、洗濯干しや取り入れ、食事の後片付け等の日常生活上の役割を依頼する等して、生きがいややりがいに繋げている。	家族や利用者本人からの情報収集やその共有について課題があると感じているとのことである。利用者のエンパワメントを高める観点から、情報収集や共有方法を見直すとともに、役割や楽しみごとの支援について、アセスメントの実施を通じて、ケアプランへの反映に向けた取り組みに期待したい。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常では、施設の近くへ散歩に行ったりしている。 時々であるが、道の駅等へドライブにお連れして普段と異なるひと時を過ごしていただいている。	道の駅等にドライブに出かけている。外出予定の利用者が出かける際には、他の利用者も誘い、複数人で行くようにしている。外出する事ができない場合には、近隣への散歩やホームの廊下を歩いてもらい、窓から眺望できる四季の自然を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル防止の為、金銭管理は事務所で行っている。希望があれば、職員と一緒に買い物の支援をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族と電話をしていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から景色を眺め、季節感を感じることができる。 トイレを「雲隠れ」浴室を「湯あみ」と案内する等の遊び心でぬくもりを感じていただいている。	畳や障子など和の設えが落ち着いた雰囲気を出し、照明にも温かさが感じられる。廊下や居室には大きな窓があり、採光も良く、外の景色を眺められる工夫がされている。窓からは畑や遠くの山々が見え、季節を感じる事ができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同志でお話されたり、ソファで寝転がったり、テレビを見たりと自由な時間を過ごされ、思い思いにくつろげる空間作りを心掛けている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただき、居心地の良い空間作りに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表示したり、トイレや階段には自動で証明が付くようになっている。通行の妨げになるものは置かないよう安全な環境作りを心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000120		
法人名	株式会社ハートコンサルタント		
事業所名	グループホーム おひさまの大地（2階）		
所在地	岐阜県郡上市高鷲町鷲見5390-5		
自己評価作成日	令和 5年 3月28日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000120-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5年 9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、ご家族様の希望に沿って、日々の生活を自由に楽しみ、穏やかに過ごして頂けるような環境づくりに取り組んでいる。
衣食住の満足を提供できるようスタッフ一同努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おいしい食事、適度な運動を行い、真心と笑顔、寄り添う介護を日々心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の催し等に地域のボランティアに参加していただき、利用者や職員と交流やふれあいの機会を設けている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今回が初めての為、評価を受けた内容をサービスの向上に活かしていきたい		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員来所時、利用者の日頃の状況、意向を確認し、希望や願いを伝えている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠せず、外に出たい利用者には付き添い、安全を確保して拘束のないケアに取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する周知徹底を図るための研修のみならず、職員間でも利用者への言葉かけに意識をして支援にあたっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、理解が不十分であり研修などの学べる機会があると良い。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約は、ケアマネからきめ細やかな説明で契約内容を理解してもらっている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、家族との会話の中で意見を聞き、全体会議で職員に周知し、反映している		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で日常の気づき、提案を受けて反映している。 常に意見を言える環境作りに努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの職員の立場を理解しながら勤務調整を図っている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得やスキルアップに向けて、支援とサポートを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。 今後の課題である。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の整理、食器拭き等のお手伝いをし ていただき、生活機能の維持を支援し、グ ループホームで共に過ごす馴染みの関係を 築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月末に家族宛てのお便りで本人の写真を載 せ、生活の様子をお伝えしている。また、電 話でも体調や日々の様子を連絡している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体能力や残存機能をしっかり把握 し、本人の課題やニーズを分析し、多職種 が連携してケアプランの作成をしている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入、申し送りや連絡ノートでの 情報共有、常に新しい情報の共有をして課 題の整理をしてケアプランの見直しに活かし ている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせて施設の枠にと らわれない柔軟な支援ができるようにつとめ ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる音楽や歌、踊り等の輪の中に入り、地域の方と共に楽しいひと時を過ごしてもらっている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族に意向を確認し、施設の協力医療機関を主治医とさせていただいている。定期の往診、体調不良時に往診にきて下さっている。急変時には病院受診の対応をしている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、医療連携シートで情報提供をしている。病院や家族と連絡を取り入院中の状態、情報を収集している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針の共有、支援、家族への状態報告や面会を行い、本人・家族の納得のいく看取りができるよう支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、医師、看護師に報告・指示を受け対応している。実際の対応に不安がある職員もいるため、研修や事故対応マニュアルの必要性がある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、地域の方を交えた訓練は行っていない為、今後の課題である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮してそれぞれに合わせた言葉かけ、対応をしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や仕草で本人の思いを察して、自己表現・決定ができる環境作りに努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にして本人の気持ちを尊重して日々の生活を思い思いに過ごしていただいている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の手作りの食事を毎日違うメニューで提供している。おやつと一緒に作ったり、テーブル拭き、食器片付けも手伝っていた。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養状態、好みや嚥下機能に合わせた食形態で提供している。 記録で食事量、水分量の把握ができるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導を行い、自身でできない方には口腔清掃の介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるよう支援している。 排泄記録で排便の確認を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴であるが、時間や曜日は決めておらず、その日の体調や本人の意思に配慮して個々に応じた入浴の支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに添った就寝・休息の支援を行っている。居室の明るさ、温度にも気を配り、量に布団を敷いて寝る方にも対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の効果、副作用の情報を確認し、服薬時の飲み込みの確認、誤薬のないよう確認を行っている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や生きがい、楽しみを見出してレクやお手伝い等の自分のことをしていただいて満足感や充実感が持てるよう支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、施設の近くへ散歩に行ったりしている。 時々であるが、道の駅等へドライブにお連れして普段と異なるひと時を過ごしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル防止の為、金銭管理は事務所で行っている。希望があれば、職員と一緒に買い物の支援をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族と電話をしていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から景色を眺め、季節感を感じることができる。 トイレを「雲隠れ」浴室を「湯あみ」と案内する等の遊び心でぬくもりを感じていただいている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同志でお話されたり、ソファで寝転がったり、テレビを見たりと自由な時間を過ごされ、思い思いにくつろげる空間作りを心掛けている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただき、居心地の良い空間作りに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表示したり、トイレや階段には自動で証明が付くようになっている。通行の妨げになるものは置かないよう安全な環境作りを心掛けている。		